



伊雑宮と神祕のスポット「おうむ岩」へ

志摩市 磯部めぐり

志摩市磯部町にある伊雑宮は、伊勢宮内宮の別宮です。今回は地元の海女や漁師からの信仰が篤い伊雑宮へお参りし、和合山の中腹にそびえたつ「おうむ岩」へと登り、磯部神社や伊雑宮の所管社である佐美長神社をめざす、約2時間のコースを歩きます。

「おうむ岩」は、「語り場」での話し声が、約50メートル離れた「聞き場」に反響して聞こえるという不思議な岩で、頂上の展望台は絶好のビュースポット。田園地帯や家々、海までが一望でき、観光客のほか地元の人にも訪れる憩いの場となっています。

そんな風景に癒され、まちの歴史に触れる磯部の名所コースを、観光ボランティアグループ「志摩の国・案内人」で活動する瀧さん夫婦に案内していただきました。

取材・文：中村元美



「志摩の国・案内人」の瀧 勇さんと瀧 泰子さん。ご夫婦は画家で、志摩の海に惹かれて移住しました。

■ 行程図 所要時間／約2時間 ※所要時間は、おおよその目安です。

START	近鉄「上之郷」駅	170m	伊雑宮・御料田	100m	神武参剣道場	すぐ	中六	150m	風呂屋の谷	すぐ	倭姫命舊蹟地	250m	
GOAL	近鉄「志摩磯部」駅	900m	佐美長神社	150m	磯部神社	2.6Km	「おうむ岩」	700m	池深寺	900m	「磯部ふれあい公園」	600m	「上之郷の石神」

緑の杜の伊勢神宮遙宮へ

志摩市磯部町の上之郷は閑静な住宅地。昔から鳥居前町として参詣者で賑い、その町並みに当時の面影が感じられます。今回の散策は近鉄「上之郷」駅がスタートです。

駅から国道167号を渡って、「中長官家の長屋門」を右手に風情ある通りを歩いていくと、緑の杜が見えてきました。伊勢神宮内宮の別宮・伊雑宮です。

鳥居をくぐり、手水舎で清めて神域を進みます。参道にはスギの原木が2本



神明造(しんめいづくり)の鳥居



伊雑宮ご正宮



目を惹く「巾着楠」



御料田前の広場

並び、静寂さに包まれてご正宮前へ。伊雑宮の創立は約二千年前と伝わっています。天照大御神の御魂を祀る神宮の遙宮として古くから信仰を集め、地元ではいぞうぐうや磯部の大神宮と親しまれ、海の幸、山の幸の豊饒が祈られてきました。

お参りをすませ、参道左、勾玉池へと進み、根本部分が大きく膨らんだクスを見学。「この大楠は、巾着楠と呼ばれています。石があったその上に成長し、次第に石を飲み込んでこの形になったそうです」と瀧勇さん。

伊雑宮を出て、駐車場を歩いていくと、黒木の鳥居が立っています。6月24日の御田植式で知られる御料田です。千葉の香取神宮・大阪の住吉大社と合わせ、日本三大御田植祭の一つとされ、「磯部の御神田」として国の重要無形民俗文化財にも指定されています。「太鼓打ちや籠摺による田楽が響きわたる中、古式ゆかしい色鮮やかな装束を着けた地元の人によってお田植えが行われ、多くの見物人で賑わいます。青年たちが大きな団扇のついた忌竹を奪い合う竹取神事は勇壮ですよ」と瀧泰子さん。



「神武参剣道場」



「中六」



倭姫命舊蹟地



「上之郷の石神」



「磯部ふれあい公園」

集落に伝わる歴史や言い伝え

御料田を後にして、北へと進みます。伊雑宮の鳥居前、右手に見える「神武参剣道場」は旅館「吉角」の跡地に昭和36（1961）年、剣道場として建てられました。正面玄関は入母屋造の千鳥破風を設け、その上の「参剣」を表した鬼瓦が堂々たる佇まい。この建物は隣接する「中六」と同様、国の登録有形文化財です。「中六」は鰻料理店で、屋号は伊雑宮の御師・中六太夫から名付いたもの。木造二階建てで、江戸時代には旅館だったそうです。御師邸跡や世古長官の屋敷跡

を抜け、細い道を案内に沿って進むと、清水の湧く「風呂屋の谷」に出ます。昔は伊雑宮参拝前にここで禊をしたようです。



「風呂屋の谷」

来た道を戻り、第11代垂仁天皇の皇女・倭姫命の舊蹟地（旧跡地）と語り継がれる広場に立ち寄ります。屋根に覆われた「天井石」と「鏡桶」にしめ縄がかけられています。クスは大正12（1923）年に枯れたようですが、その根本から、室

町時代の鏡が見つかり、現在志摩民俗資料館に保管されているとのこと。広場には秋葉堂・庚申堂、千田の御池や勝負石と、それぞれに案内板も整備されています。

民家の並ぶ路地を抜け、二手に分かれる道を右の山手に進んでいくと、鳥居脇に幟が揺れています。ここは産土神である「上之郷の石神」で、敷地内に多数の石が群を成し、巻かれたしめ縄が信仰の深さを物語っています。しばらく道なりに進むと「磯部ふれあい公園」の多目的広場が見えてきました。体育館やテニスコート、遊具を揃えた市民の憩いス

ポットです。ここで西へ折れ、小高い丘を越えると恵利原の集落に出ます。伊勢道路（伊勢磯部線）手前の細い道へ入り、立派な石垣が並ぶひなびた農村風景の中を進みます。池深寺で右折すると、和合山中腹にそびえたつ「おうむ岩」へ、ゆるやかな登り坂が続いています。

巨岩スポットからの絶景

「おうむ岩」は幅127メートル、高さ31メートルの一枚岩。50メートルほどくだった「語り場」で音をたてると、反響して「聞き場」の岩壁から聞こえるため、「おうむ返し」にちなんで名付いたよう



「おうむ岩」の語り場

です。遊歩道も整備され、岩壁に穴が開いた場所には「倭姫機織場」の案内板もあります。

頂上にある展望台は、遠く伊雑ノ浦まで一望できる絶景スポット。一息つけるよう東屋も整備されています。下山し、恵利原の集落を進み、右手に森が見えてきたら、磯部神社の参道へ。「いくつかの神社を合祀し、明治41（1908）年に創建されました。正月には鳥居

から初日の出が見えるんですよ」と勇さん。森の境界に沿って進んでいくと、佐美長神社です。「真名鶴伝承にちなんだ神社です。伊雑宮創建に関わる白真名鶴の霊を祀り、別名「穂落社」とも呼ばれています」と泰子さん。右奥の小さな4つのお社は佐美長御前神社です。

ゴールの近鉄「志摩磯部」駅までは徒歩10分。神社の清々しい杜を歩き、二千年来の歴史に触れ、集落の風情を楽しみ、絶景にも癒される磯部の名所めぐりです。

問 志摩市観光協会

TEL 0599-46-1112



一枚岩の「おうむ岩」



展望台からの眺め



磯部神社



佐美長神社